

# スマートシティガイドブックの概要

スマートシティの取組を支援するため、先行事例における成功・失敗体験等を踏まえ、スマートシティの意義・必要性、効果、その進め方等についてガイドブックとしてとりまとめ、地方公共団体の首長、職員等に対し、スマートシティの取組に係る知見、気付きを提供する導入書。

## 1 - 1 . スマートシティの意義・必要性

- 都市、地域が直面する社会課題が深刻化する中、コロナ禍も契機に進展するデジタル化の潮流は、システムの効率化、新たなサービス創出等により各種の社会課題を解決する可能性。
- 政府も行政のデジタル化やスマートシティを強力に進める方針であり、今こそ都市、地域全体のデジタル化を図るスマートシティを進める契機。

## 1 - 2 . スマートシティの基本コンセプト

- < 3つの基本理念 >** 市民（利用者）中心主義 / ビジョン・課題フォーカス / 分野間・都市間連携の重視
- < 5つの基本原則 >** 公平性、包摂性の確保 / プライバシーの確保 / 相互運用性・オープン性・透明性の確保 / セキュリティ・レジリエンスの確保 / 運営面、資金面での持続可能性の確保

## 2 - 1 . スマートシティの進め方

取組段階ごとの留意点について、先行事例を交えて解説

初動

### 推進体制を整え、機運を醸成し検討準備を整える段階

- アドバイザー / アーキテクト等の専門人材を招聘
- 機能的、機動的な庁内体制を構築し、縦割り打破
- 議会、地元経済界、地域住民団体、地元大学など地域の関係者との対話と機運の醸成

準備

### 地域課題・市民ニーズを収集しビジョンを共有する段階

- 地域の課題・重要政策・資源・強みを整理
- 市民ニーズのこまめな吸い上げ
- スマートシティで目指すべきビジョンをとりまとめ、多様な主体の間で共有認識を醸成

計画  
(戦略)  
策定

### 推進主体を組成しプロジェクトの計画を策定する段階

- ビジョンを共有し、プロジェクトに主体的に参画する公民学の関係者で推進主体（コンソーシアム）を組成
- ビジョンを実現するための具体的な道筋を明らかにするための計画（戦略）の策定

実証・  
実装

### 実証実験等を通じて、熟度や社会的受容性を高めるとともに、地域にスマートシティを根付かせる段階

- 実験のための実験ではなく、実装に向けた実験を行い、市民理解の下、無理のない形で段階的に実装
- 実装後も、モニタリングを通じて「バージョンアップ」を意識

定着・  
発展

## 2 - 2 . 進める上でのポイントと対応

主な課題（推進体制、資金、市民参画、都市OS導入、KPI）について、解決に向けたポイントを先行事例を交え解説

### 機能的、機動的な推進主体の構築

- 推進主体には、異なる組織論理、利害を有する公民の様々なプレイヤーが参画。構成員の利害を調整しながらプロジェクトを推進する実行力を強化することが必要。
- 様々な官民データを流通させ、利活用を図るためには、「保護」と「利活用」のバランスが重要であり、データ取扱いルールの明確化が必要。

### 資金的持続性の確保

- 直接的・間接的な受益者を整理し、特に十分な収益性が見込めない公共的サービスやデータ連携基盤等については、受益に応じた適切な費用負担が必要。
- 行政コストの削減や市民への広範な受益に対しては、行政が費用負担する事例。

### 市民の積極的な参画

- 市民参画により、市民ニーズに応えるサービス、パーソナルデータを含む官民データの利活用が広がり、さらなるサービス創出へとつながる。
- まずは市民の関心や理解を深めた上で、双方向型の対話を深めていく必要。

# スマートシティガイドブックのポイント

**ポイント**  
**「スマートシティって何？」**という人向けに、**スマートシティの定義や基本コンセプト**を解説

**スマートシティって？**  
 下記の基本理念、基本原則に基づき  
 新技術や官民各種のデータを活用した市民一人一人に  
 寄り添ったサービスの提供や、各種分野におけるマネジメントの  
 高度化等により  
 都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を  
 創出し続ける  
 持続可能な都市や地域

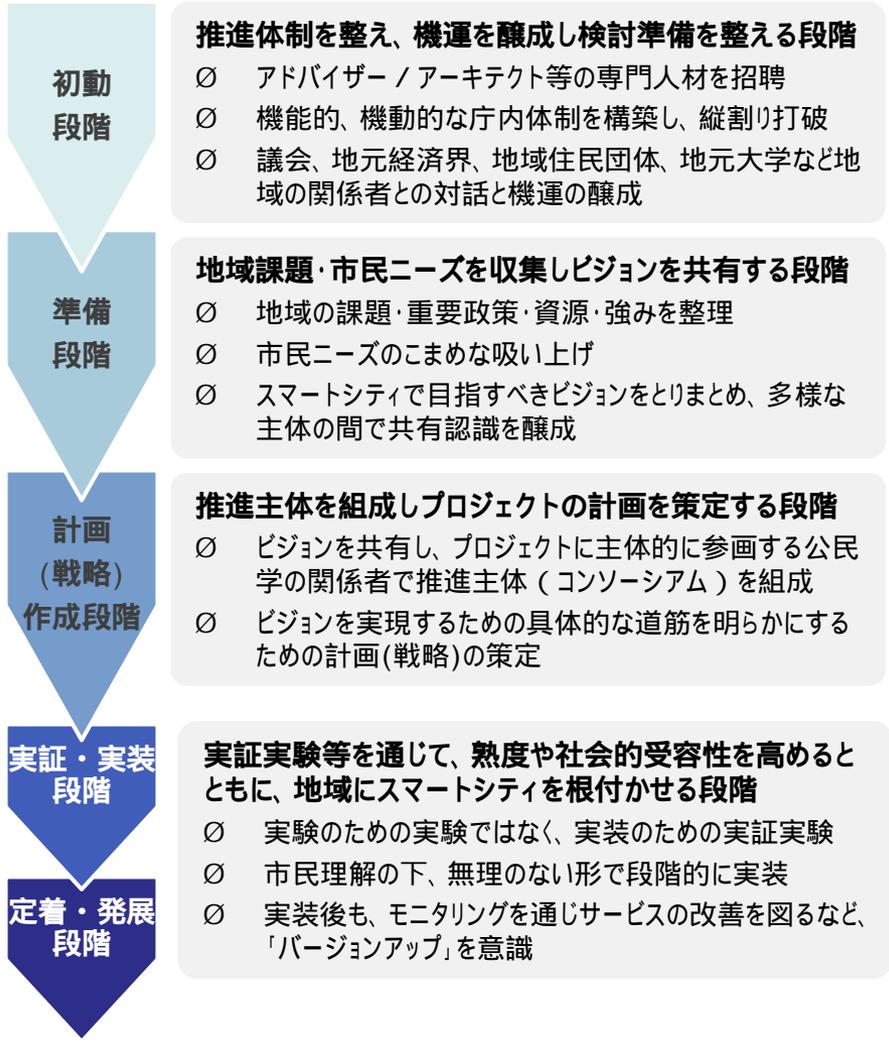
◆ **3つの基本理念**

- 市民（利用者）中心主義**  
 "Well-Beingの向上" に向け、市民目線を意識し、市民自らの主体的な取組を重視
- ビジョン・課題フォーカス**  
 「新技術」ありきではなく「課題の解決、ビジョンの実現」を重視
- 分野間・都市間連携の重視**  
 複合的な課題や広域的な課題への対応等を図るため、分野を超えたデータ連携、自治体を越えた広域連携を重視

◆ **5つの基本原則**

- 相互運用性・オープン性・透明性の確保**  
 都市OSにおける相互運用機能、オープンなデータ流通環境、意思決定プロセス等における透明性を確保
- 公平性、包摂性の確保**  
 全ての市民が等しくサービスを受容し、あらゆる主体が参画可能であること
- プライバシーの確保**  
 パーソナルデータの利活用を進めるにあたり、市民のプライバシーの確保を徹底
- 運営面、資金面の持続可能性確保**  
 持続的なスマートシティの実現に向け、運営面、資金面での持続可能性を確保
- セキュリティ、レジリエンスの確保**  
 プライバシー保護や災害等緊急事態に対しセキュリティ、レジリエンスを確保

**ポイント** **「スマートシティに取り組みたいけど、何から始めれば？」**という人向けに、**取組段階ごとの留意点**を先行事例を交えて解説



# スマートシティガイドブックのポイント

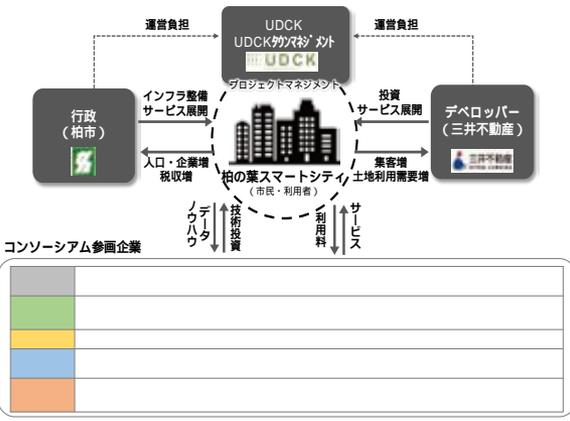
**ポイント** 「スマートシティを進めているが、困っている点がある」という人向けに、**主な課題（推進体制、資金、市民参画、都市OS導入、KPI）**について、**解決に向けたポイント**を先行事例を交え解説

## 機能的、機動的な推進主体の構築

- 推進主体の実行力を高めるためのポイントを紹介。
- 推進主体には、異なる組織論理、利害を有する公民の様々なプレイヤーが参画。構成員の利害を調整しながらプロジェクトを推進する実行力を強化することが必要。
  - 様々な官民データを流通させ、利活用を図るためには、「保護」と「利活用」のバランスが重要であり、データ取扱いルールの明確化が必要。

### 柏の葉スマートシティ（柏市）

・都市再生推進法人である(一社)UDCK及び(一社)UDCKタウンマネジメント、柏市、三井不動産を中心に運営体制を構築。



### <データ倫理審査会>

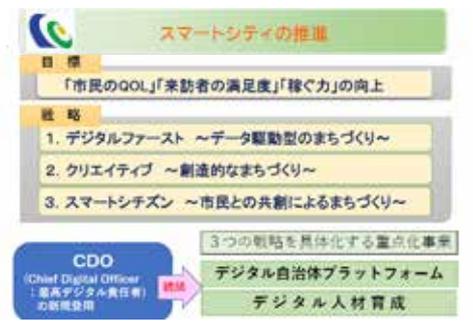
- ・個人情報取扱のため、データ倫理審査会を設置しガバナンスを強化。
- ・個人情報の利用目的、第三者提供等に関して、その適切性を審議・助言を行う。

## 資金的持続性の確保

- 費用負担の考え方とともに、資金確保の取組事例を紹介。
- 直接的・間接的な受益者を整理し、特に十分な収益性が見込めない公共的サービスやデータ連携基盤等については、受益に応じた適切な費用負担が必要。
  - 行政コストの削減や市民への広範な受益に対しては、行政が費用負担する事例。

### 行政DXに向けた予算措置（加賀市）

市民のQoL、来訪者満足度、稼働力の向上のため、スマートシティの推進を最重点事業に位置付け。データ連携基盤の整備や先端技術の実証実験、デジタル人材育成にかかる費用等に関して予算措置。



## 市民の積極的な参画

- 市民参画が必要な理由とともに、取組事例とポイントを紹介。
- 市民参画により、市民ニーズに応えるサービス、パーソナルデータを含む官民データの利活用が広がり、さらなるサービス創出へとつながる。
  - まずは市民の関心や理解を深めた上で、双方向型の対話を深めていく必要。

### 市民ニーズを吸い上げる取組

・まちもんは、道路破損、街灯故障など街の課題をスマホを使って投稿し、解決・共有していく仕組みを提供。



・加古川市では、市民参加型合意形成プラットフォーム (Decidim) を立ち上げ、スマートシティ構想への意見を募集。

